KIORITZ

取 扱 説 明 書

共立肥料散布機
F600

⚠ 警　告

ご使用前に、必ず取扱説明書をよく読んで正しく作業してください。
取扱説明書の指示内容を守ってください。
守らなかった場合は、死亡または重傷事故を起こす恐れがあります。

2001/06

はじめに

ご挨拶

・共立肥料散布機をお買い上げいただき、ありがとうございます。

用途

・この散布機は、軽量・小型に製造されたガソリンエンジン付散布機です。
・この散布機は水田などの薬剤散布に使用するものであり、目的以外に使用しないでください。
・機械を改造しないでください。
・整備不良の機械や、改造した機械は危険ですので使用しないでください。

取扱説明書について

・この取扱説明書には、組立や操作、整備に必要な事項が書かれていますので正しく効果的な製品の取扱いができるよう､よく読んで理解してください。説明を分かりやすくするため、使用しているイラストは現品と異なる場合があります。
・単位はＳＩ単位（国際単位系）を使用しています。（　）内は参考値ですので数%の換算誤差がある場合もあります。
・この取扱説明書は、いつでも読めるように必ず保管してください。
この取扱説明書が損傷により読めなくなったり、紛失した場合は、販売店から新しく取扱説明書を購入してください。

貸与、譲渡

・この取扱説明書で解説している機械を貸与する場合、借りて作業をする人に､この取扱説明書を読ませ、充分な指示、訓練を行った後、この取扱説明書とともに機械を貸与してください。
製品を譲渡される場合は、この取扱説明書を製品に添付してお渡しください。

おことわり

・本書に記載されている仕様や解説あるいは説明のために例にあげられている図や内容は、改良のため予告なしに変更することがあります。
・ご不明なことやお気付きのことがございましたら、販売店にご相談ください。

目　　次

はじめに 2
警告表示マークの意味 3
各部の名称 4
　各部の名称とその機能 5
組立 6
　散紛、散粒装置の組立 6
正しい作業のために 8
　作業者の体調 8
　保護具 8
　薬剤 9
操作方法 １０
　燃料の取扱い １０
　エンジンの始動と停止 １１
　散布作業 １４
　散布ホースによる作業 １５
　肥料散布 １６
　吐出量と調量レバー １７
点検・整備 １８
　整備の目安 １８
　点検要領 １８
故障診断と対策 ２２
保管 ２３
　長期保管（６０日間以上） ２３
特別注文品（オプション） ２３
仕様 ２４

警告表示マークの意味

⚠ 危　険

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものです。

⚠ 警　告

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う可能性があるものです。

⚠ 注　意

その警告に従わなかった場合、ケガを負う恐れのあるものです。

丸に左斜線の入ったこの記号は、表示されているものが全て禁止されていることを表わします。

重　要

重要として囲まれた文章は、この取扱説明書で説明されている機械の使用、点検、保守・保管に関する重要な注意事項です。

- この取扱説明書で解説されている機械には、下表の「警告表示ラベル」が貼付してあります。ご使用前にラベルの意味を理解してください。
- 万一、ラベルが摩滅したり破損して読めなくなった場合や、はがれて紛失した場合は、販売店から新しくラベルを購入し、「各部の名称」に指示してある箇所に貼り、常にラベルが読める状態を維持してください。

警告表示ラベル

⚠ 警　告

排気ガスに注意

室内（ハウス等）および換気の悪い場所での運転は排気ガスが充満し、人体に有害です。

⚠ 注　意

ご使用前に必ず取扱説明書をよく読んで正しく作業してください。

⚠ 注　意

- 作業中は、かならず保護めがね、保護マスク、耳栓、保護衣を使用してください。
- 農薬をあびるおそれがあります。
- 使用農薬の取扱説明書を読んで正しく使用してください。

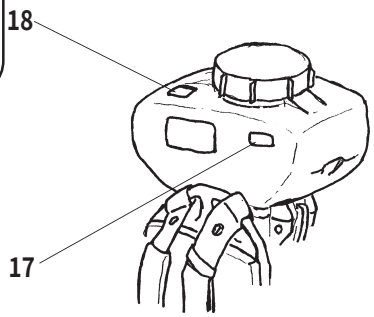
各 部 の 名 称

⚠ 注　意

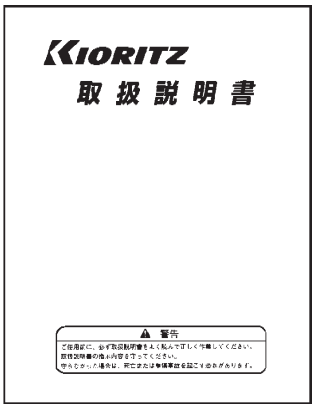
- 作業中は、かならず保護めがね、保護マスク、耳栓、保護衣を使用してください。
- 農薬をあびるおそれがあります。
- 使用農薬の取扱説明書を読んで正しく使用してください。

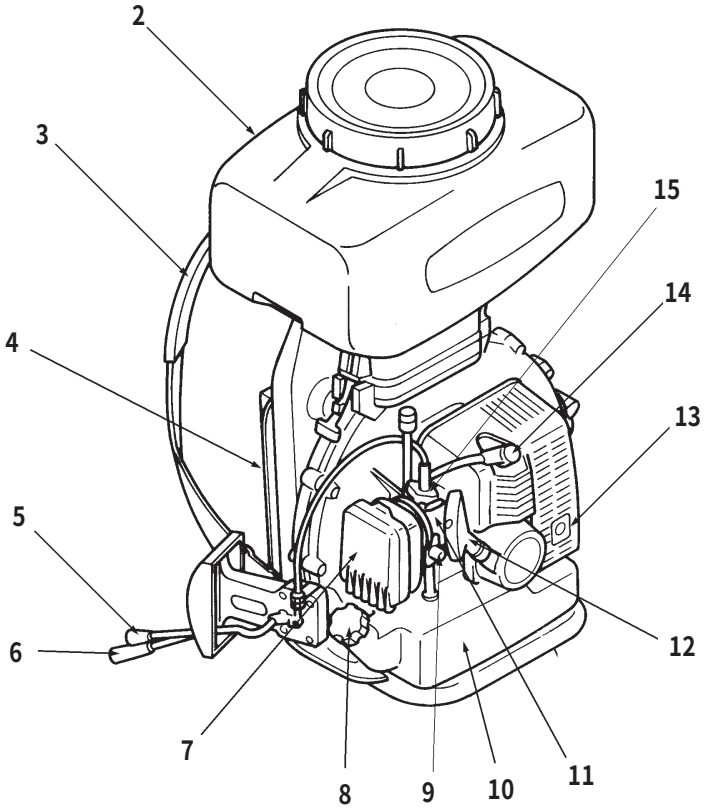
⚠ 注　意

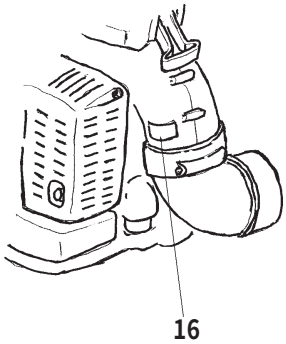
ご使用前に必ず取扱説明書をよく読んで正しく作業してください。



1 →







⚠ 警　告

排気ガスに注意

室内（ハウス等）および換気の悪い場所での運転は排気ガスが充満し、人体に有害です。

各部の名称とその機能

１．取扱説明書　― 機械をお求めになったとき必ず付いています。
機械を使用する前に必ず読んでください。
また正しい操作技術を再確認する場合に備え、すぐ取出せる場所に、必ず保管してください。

２．薬剤タンク　― 薬剤を入れる容器です。

３．背負バンド　― 本機を背負う際に使用します。

４．背当て　― 運転者が本機を背中で受け保持するものです。

５．スロットルレバー　― エンジン回転数を調節するためのレバーです。

６．調量レバー　― 粉剤、粒剤、肥料の吐出量を調節します。

７．エアクリーナ　― エンジンに供給される空気をきれいにします。

８．燃料タンクキャップ　― 燃料タンクを密閉するふたです。

９．プライマリポンプ　― 始動前にこのバルブを押して、燃料タンクからキャブレタに燃料を送り込むポンプです。

１０．燃料タンク　― 燃料を入れる容器です。

１１．チョークレバー　― 始動時に燃料と空気の混合比を濃くするレバーです。

１２．リコイルスタータ　― エンジンを始動するとき使用します。

１３．マフラカバー　― 消音器（マフラ）をカバーし、作業者が不用意に熱いマフラに触れるのを防ぎます。

１４．スパークプラグ　― エンジンの頭部に組付けられ、燃料に点火するものです。

１５．キャブレタ　― エンジンに吸入する空気に燃料を気化させて混合し送ります。

１６．警告ラベル　― エンジンの排気ガスは有毒です。屋内など換気の悪い場所で使用しないでください。

１７．注意ラベル　― ご使用前に必ず取扱説明書をよく読んで正しく作業してください。

１８．注意ラベル　― 作業中は必ず保護めがね、保護マスク、耳栓、保護衣を使用してください。
農薬をあびないように注意してください。使用する農薬の取扱説明書をよく読んで正しく使用してください。

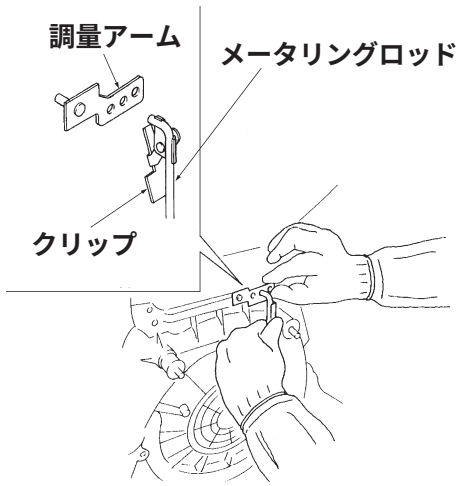
組　　立

・機械を改造しないでください。
・整備不良の機械や、改造した機械は危険ですので使用しないでください。

重　要

薬剤タンクと調量シャッタは組付けられた状態で出荷されます。
清掃などのために取外したあとの組付けについては点検・整備の項（２１ページ）をごらんください。

図１



散粉、散粒装置の組立

出荷時には、メータリングロッドを“増”の位置の状態（下表参照）で組立ててあります。
ご使用状態によって、メータリングロッドのセット位置（背負架側から調整可能）を下表によってセットしてください。

メータリングロッドのセット方法

左手の人差し指と親指でクリップを握り、右手で調量アームの高さの調整をすると、簡単にセット位置を変更することができます。

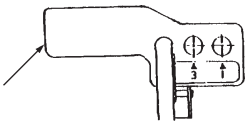
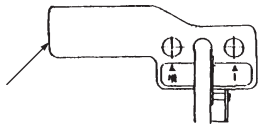
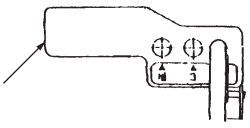
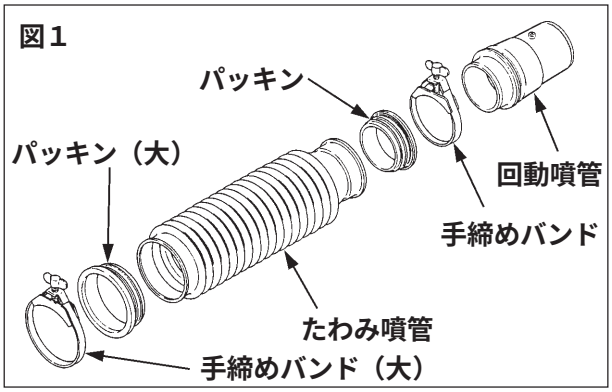
メータリングロッドのセット位置	散布方法
「増」の位置 調量アーム 	粉剤・ＤＬ粉剤のホース散布 肥料散布
「３」の位置 調量アーム 	３キロ粒剤散布
「１」の位置 調量アーム 	粉剤・ＤＬ粉剤の噴管散布 １キロ粒剤散布

図１



たわみ噴管と噴管の組付

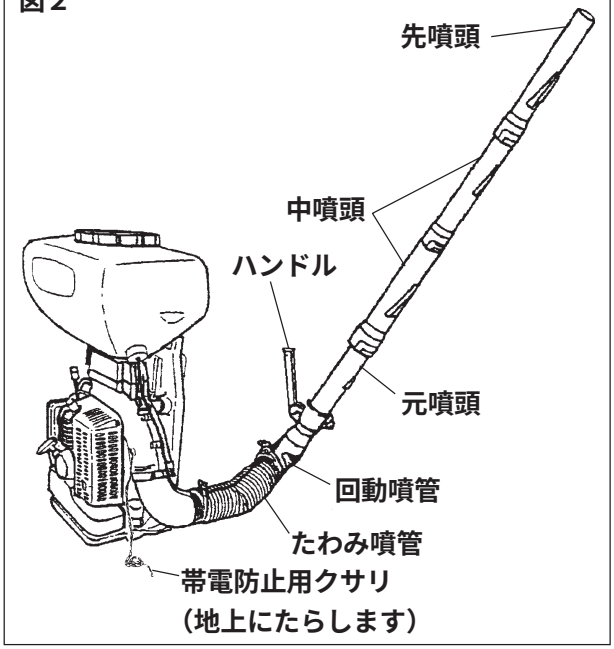
送風機出口に、図１のようにたわみ噴管、回動噴管を組付けてください。

パッキンは、先に回動噴管にはめておいてから、たわみ噴管に入れた方が組付けやすくなります。

たわみ噴管と回動噴管は手締めバンドで締めてください。

・ 回動噴管は、共立畦畔噴頭「ＤＭＫ－１」をご利用の際にご使用ください。

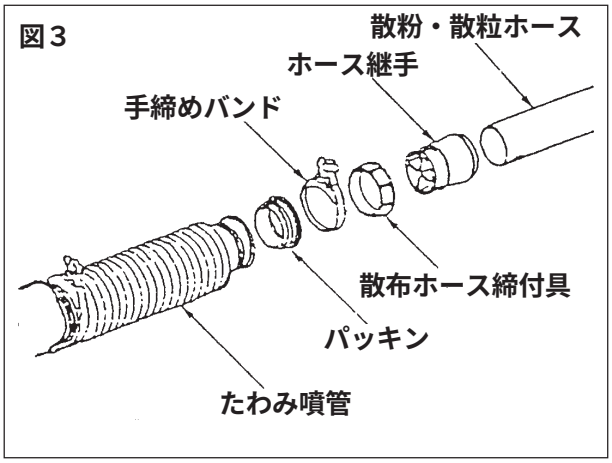
図２



散布ホースの組付

散布ホースは次のものが用意されています。
ご利用状態によっておえらびください。
（別売品：２３ページをご参照ください。）

図３



散粉ホース：２０，３０，４０，５５，６０m用
散粒ホース：２０，３０，４０m用（除草剤用）
２０，３０m用（肥料用）
（散布ホース締付具､ホース継手は別売品として用意しております。）

・ たわみ噴管が背当てとほぼ平行になるようにセットし組付けてください。
散布ホース継手の先にホースをかぶせ、散布ホース締付具の先細りの部分で締付け、ホースを引いて抜けないことを確認してください。
・ 吐粉・吐粒孔が必ず真下になるようにします。

帯電防止用クサリ

静電気帯電防止用クサリは本機に組付けてありますから、背負架のバンド取付部を通してから地上にたらしてください。“クサリ”は作業者の足にくくりつけると作業がしやすくなります。

正しい作業のために

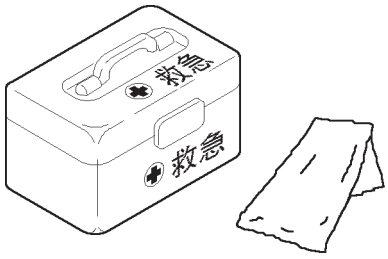
⚠ 警　告

- 機械が不適切に使われたり、あるいは使用上の注意を守らないとき、重大事故の可能性があります。
- 使用する薬剤に直接触れることを避けてください。薬剤被覆時の緊急処置と同様、薬剤の警告、薬剤の取扱説明書の注意事項をよく読んでください。
- 機械を運転するときは、適切な衣類と正しい保護具を身につけてください。

図1



図2



救急箱　　タオル、てぬぐい

図3

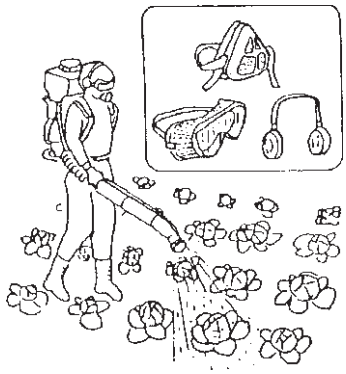


図4



⚠ 注　意

- 機械を操作する人は心身ともに健康でなければなりません。
  子供には使わせないでください。
- 夜間や天候不良などの視界の悪いときは作業をしないようにしてください。

作業者の体調

- 疲れているときは、機械を使用しないでください。もし、作業中に疲れた場合は作業を中断し休憩してください。
- 酒を飲んでいる人、薬物の影響がある人は、機械を操作しないでください。視覚や敏しょう性、判断力に影響をおよぼします。
- 妊娠している人、運転が未熟な人、負傷中などで薬剤の影響を受けやすい人は機械を操作しないでください。また薬剤に触れないでください。

ケガへの備え

- 万一のケガへの備えとして、応急手当用品の入った救急箱を用意してください。
  出血をともなうケガについては、止血用に汗拭き用のタオルや、てぬぐいなども有効ですので、常時余分に作業現場へ携帯することをおすすめします。
- 応急手当については、地域の消防署や消防組織（消防団など）で知識、技能の普及につとめていますので、それらの講習、訓練を受け、基本的な知識を習得されることをおすすめします。

保護具

身体を保護する衣服

足や体がむき出しにならないような、耐薬品性のある作業衣を着用してください。衣服はボタン、ファスナを完全にし、裾じまりや袖じまりを良くしてください。フリルや飾りヒモは機械などに絡まる原因になります。ネクタイ、だぶついた服、宝石類は着用しないでください。髪の毛は肩より上でまとめてください。

目の保護

目の保護に保護めがね（ゴーグル）を着用してください。日常、めがねを使用している人は、そのめがねの上から保護めがね（ゴーグル）などの目を保護するものをつけてください。

頭部の保護

作業帽または防護頭巾を使用し頭部や首を保護してください。

耳の保護

長時間大きな音を聞いていると聴覚が弱くなったり、聞こえなくなったりする原因となります。耳覆い（イヤーマフ）や耳栓などの聴覚を保護するものを着用して騒音から耳を保護してください。

手の保護

ゴム手袋を着用してください。直接薬剤に触れないでください。

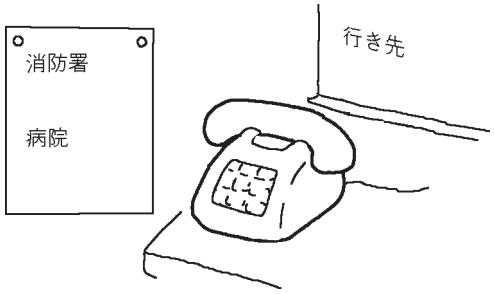
脚全体の保護

底に滑り止めのあるゴム長靴などをはいてください。つま先のあいた靴を履いたり、裸足で機械を使用してはいけません。

身体の保護のためのその他の事項

- 保護用の衣類は汗をかき、疲労を増します。気温が高いときは作業を中止し気温が下がってから作業をしてください。
- 粉剤散布のときは防毒マスクを着用し、農薬を吸い込まないようにしてください。付属の防除マスクは防毒マスクではありません。
- 万一の事故に備え、電話機のそばの目につきやすい場所に、医療機関、消防署（救急車）の電話番号を明確にしておいてください。
  特に消防署への連絡の場合、救急車のための目標地点（住所、目標となる建造物など）も明確にしておくと、的確な連絡に役立ちます。
- 単独で作業する場合、どこで作業を行っているかが他の人にもわかるような方法（黒板に作業現場をメモするなど）を講じてください。負傷し動けなくなり帰れない場合の対処として有効です。
- 作業現場には、呼子（笛）を携帯してください。

図１



⚠ 危　険

- 薬剤に直接触れたり、口にしないでください。薬剤には人間や動物にとって極めて有毒なものがあります。薬剤の使用を誤ると、重度の中毒症にかかったり、死に至ることがあります。
- 薬剤は内容を明記した箱に入れ、子供の手が届かない鍵の掛かる場所に保管してください。誤って飲み込むと死亡する恐れがあります。

⚠ 警　告

硫黄は大変燃えやすい物質です。硫黄分を含む薬剤を散布するときは、薬剤の取扱説明書をよく読んで注意して取扱ってください。

重　要

常に、新しく乾燥した薬剤を使用してください。

薬剤

- 薬剤はタンクからあふれるほどの量を入れないでください。また、薬剤がこぼれたときはすぐに拭き取ってください。
- 薬剤を取扱う際には、その薬剤の説明書に記載されている注意事項と取扱い方法に従ってください。
- 本機や薬剤に関する知識を持たない人や子供などが取扱うことがないようにしてください。
- 薬剤タンクキャップはしっかりと締め、運転時に薬剤が漏れないようにしてください。
- 薬剤の容器は薬剤の取扱説明書で定められた方法で処理してください。

操　作　方　法

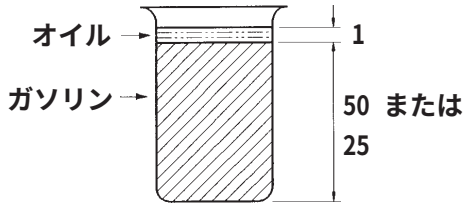
⚠ 警　告

- 引火しやすいので、燃料の取扱いは火災に充分注意してください。
  燃料の補給中にタバコをすったり、火花を出したりしないでください。
- エンジンがまだ熱いときや、エンジンをかけたままでの燃料補給は絶対にしないでください。
- 作業中、万一、エンジンから発火または排気口以外から発煙したら、機械を身体から離し、まず身体の安全を確保してください。

⚠ 注　意

燃料を補給する際はポンプを使用し、機体が安定した状態で注油口からこぼれないように注意して補給してください。
傾斜地では補給しないでください。
機械に燃料が少しでもこぼれたら、必ず拭き取ってください。

図１

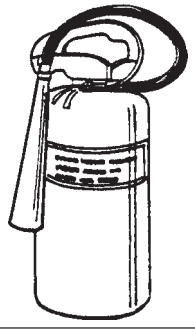


ガソリン	２サイクルエンジンオイル	
L	mL	
	５０：１	２５：１
４	８０	１６０
８	１６０	３２０
２０	４００	８００

図２



図３



シャベルまたは消火器を用意する

燃料の取扱い

重　要

- 混合燃料の長期保管は劣化しやすいので、燃料は使用する分量だけ混合してください。
  燃料の混合は、機械の燃料タンクで行わないでください。
- 燃料タンク、燃料タンクキャップ、燃料タンクブリーザ、燃料パイプなどは使用前に点検し、異常が発見された場合は使用せず交換してください。
- ＪＡＳＯ性能分類：２サイクルエンジンオイルの潤滑性能順にＦＣ、ＦＢ、ＦＡの３種類に分類し表示します。共立純正２サイクル専用オイルは「ＦＣ」で、混合比「５０：１」で使用します。

● 本機の燃料にはレギュラーガソリンと、２サイクル用エンジンオイルを混合した燃料を使用してください。
  正しくない燃料はエンジン機能不良の原因となります。
● 燃料の混合比は、２サイクルエンジンオイルの種類により下記の通り使用してください。

・共立純正２サイクル専用オイル ;[５０：１]
　ＪＡＳＯ性能分類　ＦＣ

・２サイクルエンジンオイル　　;[２５：１]
　ＪＡＳＯ性能分類　ＦＢ、ＦＡ

● ガソリンとオイルの混合はガソリン用の容器を使用し、よく混合してください。

● 自分の身体を、火災その他の傷害から守るように注意してください。
● 草木などに類焼しないよう注意してください。
● シャベルで砂などをかけるか、または消火器で消火してください。

図１



- 燃料容器には、外気との間に圧力差が生じています。燃料タンクキャップをすこしゆるめて、圧力差を取除いてください。
- 燃料タンクに燃料を補給するときは、屋外の舗装されていない地面の上で行ってください。屋内では燃料を補給しないでください。
- エンジンがまだ熱いときや、エンジンをかけたままでの燃料補給は絶対にしないでください。
- 必ず規定レベル以下に補給してください。
- 燃料を補給した後は、燃料タンクキャップをしっかりと締めてください。
- エンジンをかける前に、燃料をいれた場所から３m以上移動してください。
- 燃料タンクに燃料が残っている状態で機械をしまわないでください。燃料漏れがあった場合、火災の原因となります。

エンジンの始動と停止

⚠ 警　告

エンジンの排気ガスには、死に至る有毒なガスが含まれています。屋内や通気の悪い場所でエンジンを始動しないでください。

図２
屋内での運転禁止

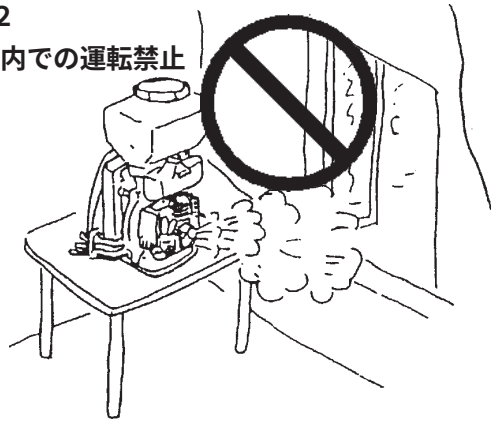
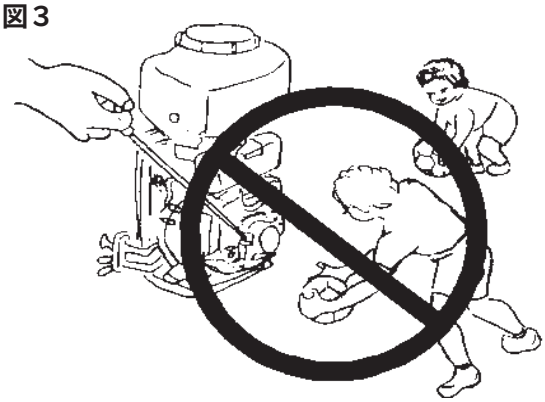


図３



⚠ 注　意

- エンジンを始動する前に、ボルトやナット、ネジが締まっているか確認してください。ゆるんでいる場合は、増し締めしてください。
- 燃料が漏れていないか確認してください。
- 機械を始動する前に、薬剤タンクキャップをしっかり締めてください。
- 機械の周囲は充分に広くとり、人、動物は近づけないこと。また、障害物がないことを確かめてから始動してください。
- 機械は地面にしっかりと押え、始動してください。
- エンジンが停止しないときはチョークを閉じると停止します。機械を再び使用する前に、ストップスイッチの点検をしてください。

重　要

- 始動時には調量レバーは必ず閉じておきます。
- 噴管なしで運転されますと正規の回転が上がらないだけでなく、エンジン不調の原因となります。
- 燃料が漏れている場合は、エンジンを始動せずにお買い求めの販売店にご相談ください。
- スタータグリップを引くときは、まず軽く引き出し更に素早く引いてください。引き紐の２／３以上は引き出さないでください。
- スタータグリップを戻すときは、途中で手から離さないでください。

図1

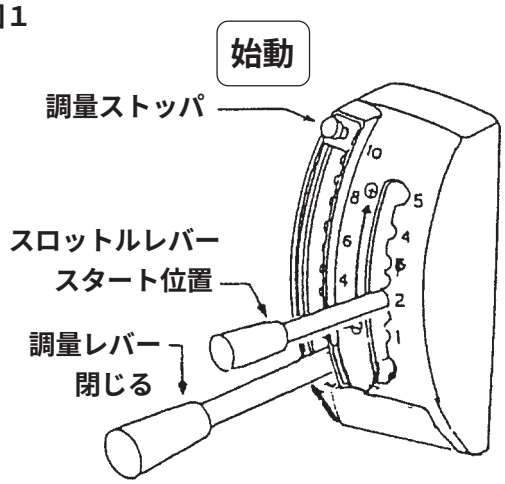


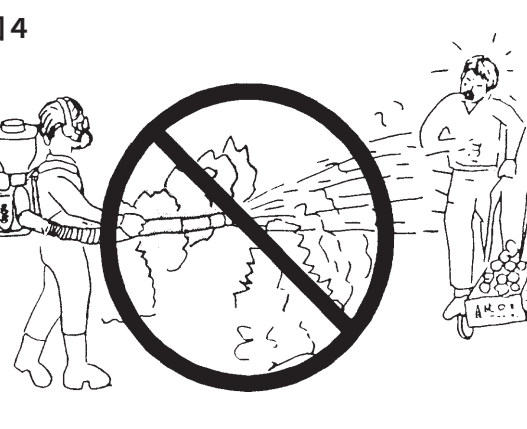
図2



図3

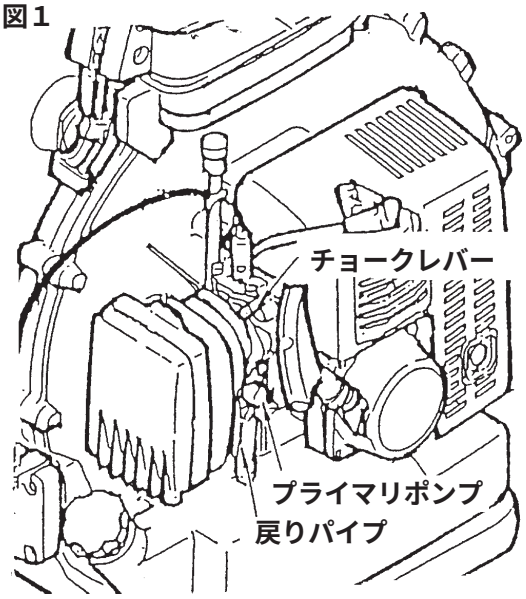


図4



- エンジンを始動するときは、地面に機械をおいて調量レバーを閉じ、スロットルレバーをスタート位置にしてください。燃料管が折れ曲がっているときは、エンジンを始動しないでください。
- この機械を背負ったままでエンジンを始動しないでください。
- この機械を使用する場所をチェックしてください。傷害や機械を損傷させる障害物となるような物は作業する場所から取除いてください。
- 足場の悪い所ではこの機械を使わないでください。
- 機械の始動時、また使用時は、その場所に他の人、また、ペットを近づかせないでください。
- 噴管を人や動物へ向けないでください。
- 噴管とパイプは、いつもしっかり握ってください。
- この機械を扱う際、高温によるやけどを防止するため、手や体をマフラやシリンダなどの高温部に触れないようにしてください。
- 整備の良くない機械や自分勝手の改造品を取付けた機械を使わないでください。
- 全装備での機械操作時は特にバランスを失わないように注意してください。
- 機械を背負ったとき背負バンドと操作レバーがもつれないようにしてください。
- この機械は、真直ぐに立てた状態で使用するよう設計されており、使用時および運搬時に横にしたり、極端に傾けたりして、薬剤が漏れないようにしてください。
- 夜遅くまたは朝早く近隣の人に騒音で迷惑をかけるようなときは、この機械を使うことを避けてください。
- マフラが、正常に機能していることを確認してください。機械が適切に作動するように、空気吸入部分とエアフィルタもチェックしてください。

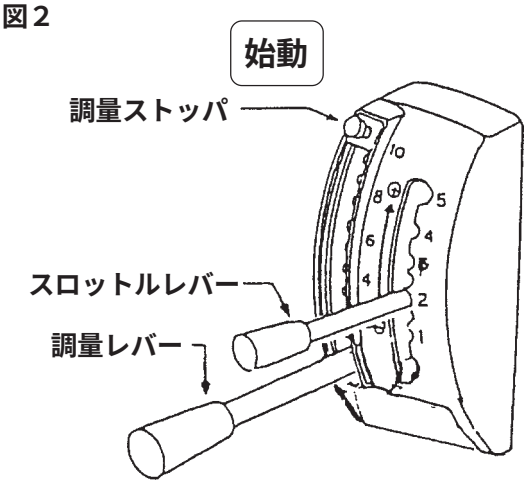
図１



始　動

- スロットルレバーを中間位置（２～３）まで上げてスロットルを開きます。（図２参照）
- チョークレバーを上側にして“閉”にします。（図１参照）
- プライマリポンプを数回押して戻りパイプから燃料が下がってくるのを確認してください。
- スタータグリップを軽く２～３回引いて燃料を吸い込ませてから強く引くと始動します。
- 始動後はチョークを徐々に戻し（チョークを“開”にする）そのまま低速の状態にして暖機運転を行います。
- エンジンが暖まっているときはスロットルレバーを１～２まで上げてチョークは“閉”にしないでも始動します。またプライマリポンプも押さなくても始動します。

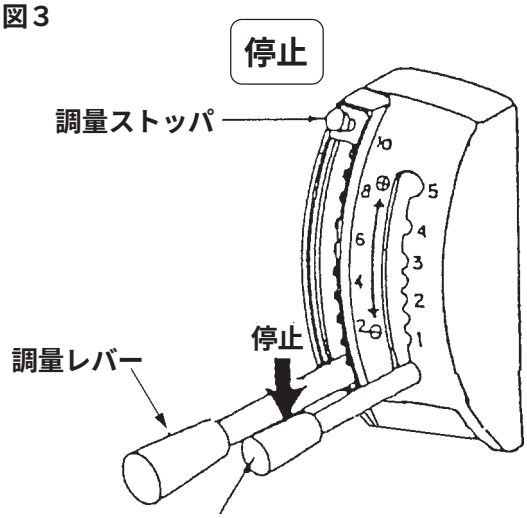
図２



運　転

低速運転を続けた後、徐々にスロットルレバーを上げ規定の回転数に達したら作業に入ってください。

図３



停　止

まず調量レバーを閉じて、薬剤の吐出が完全に止まっていることを確かめてから、スロットルレバーを低速位置1～2まで下げ、しばらく低速運転をつづけてから最下位に下げてください。（図３参照）
エンジンが停止します。

1	調量レバー	閉
	↓	
2	スロットルレバー	低速位置１～２
	↓	
3	スロットルレバー	最下位

エンジン停止後、キャブレタ内の燃料は自動的に排出されます。

散布作業

傷害事故を防止するため

- 薬剤を被ることのないよう、風の強い日や雨の日は機械を使わないでください。
- 仕事を始める前に、風向きをみてください。ドアや窓の開いている家、自動車、ペット、子供、あるいは薬剤による傷害を起こすようなものには、薬剤は散布しないでください。
- 散布は、風下に向かって行ってください。
  薬剤の分散による損失を少なくして薬剤の散布効率を高めるため、風のない温度が安定している朝、または夕方を選んで作業してください。
- 散布作業終了後、薬剤や機械の後かたづけが終わったら、手、顔など外部にさらされた場所を石けんでよく洗い、うがいをし、入浴をして全身をよく洗ってください。作業中に着ていた服は、他の衣服とは別に洗ってください。

図１



本機は肥料散布専用機としてご購入いただきましたが、この機械をよりよくご理解いただくため、肥料以外の薬剤についても、簡単に散布要領を記載しましたのでよく読んでください。

薬剤の補給

薬剤をタンクに入れたまま長時間放置すると、薬剤の種類によっては堅くしまり、出が悪くなることがありますから、散布直前に補給することが大切です。

調量レバーの操作

- 調量レバーはエンジンを使用回転に上げてから徐々に開けてください。
- エンジンを停止または、低速にするときは必ず調量レバーを閉じてからスロットルレバーを下げてください。
- 調量レバーは下から上へ動かして目的の目盛位置で使用してください。上から下へ動かした場合は、正確な吐出量が得られないことがあります。

調量レバーストッパの使用方法

薬剤を散布するときは、１７ページに操作基準として記してある「吐出量と調量レバー」の項によりそれぞれの適正位置にストッパを固定させて調量レバーの開度を規制して使用します。

図２

調量ストッパ：調量レバーの上限を計画散布量に従って適正な位置に固定します。

調量レバー開度 ： ９段階

スロットルレバー開度：７段階に調節できます。

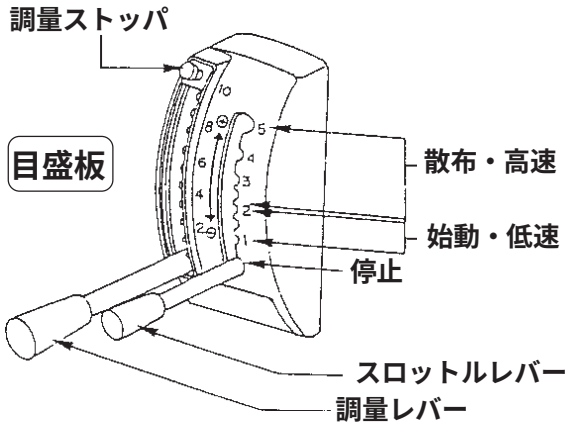


図１

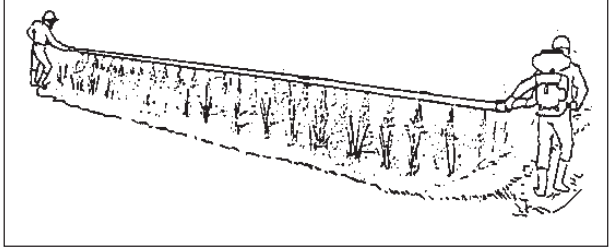


図２

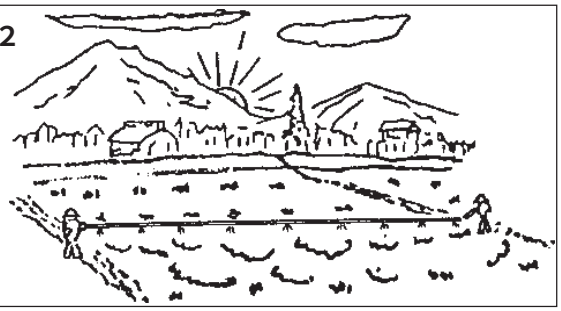


図３

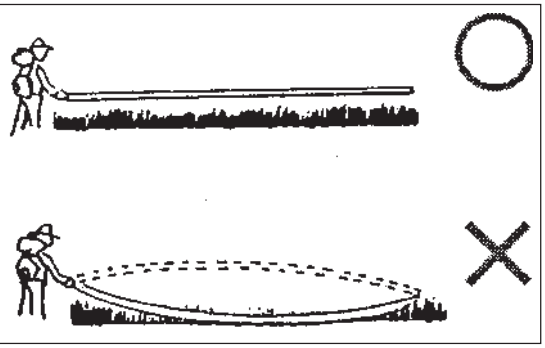


図４

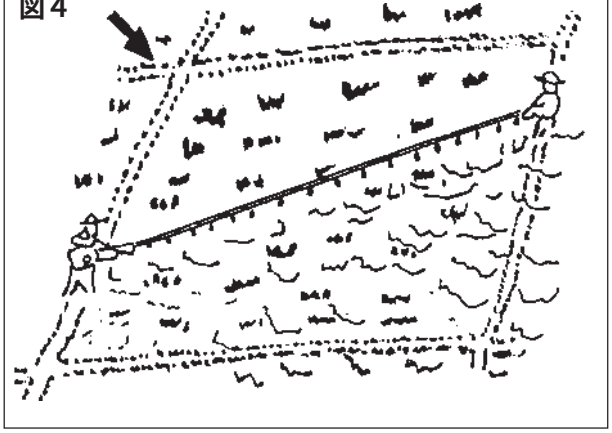
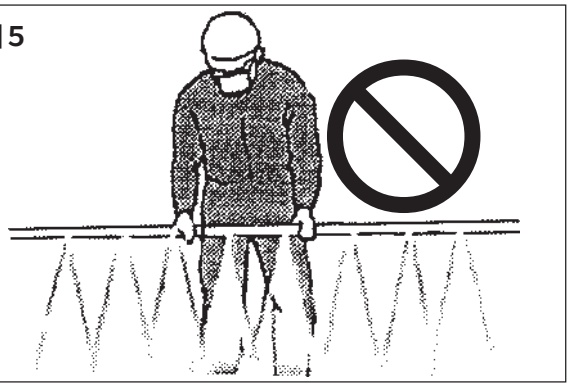


図５



散布ホースによる作業

⚠ 警　告

- 散布作業のときは、防毒マスクを着用し農薬を吸い込まないように注意してください。付属の防除マスクは防毒マスクではありません。防毒用マスクとして使用しないでください。
- 散粉ホースの中持ち作業は農薬をあびる恐れがあり危険ですから絶対にしないでください。

重　要

湿度などの変化により、吐粉量が異なる場合がありますから注意してください。
粉剤が固くしまって吐粉ムラとなる場合がありますので、使用する直前に粉剤を入れてください。

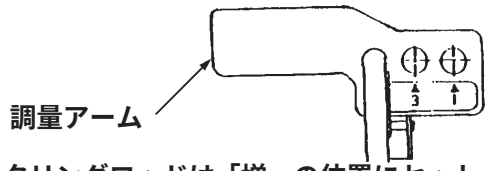
背負動力散布機を背負った作業者と、ホースの先端を保持する作業者の二人で、農道や畦畔などから散布することができます。

- 散布ホースは２０～６０mのものがあり、粉剤、粒剤を均等に散布することができます。
- 各種の薬剤に対応して、一般粉剤用ホース、ＤＬ粉剤用ホース、紋枯用ホース、粒剤用ホース、肥料用ホースなどが開発されています。
- 散布時は、薬剤が防除対象部（草冠部または株元）で拡散されるようにホースの高さを調整、保持します。
- 気象条件は、昼間は風の弱いときでも、上昇気流によって散布した粉剤が飛散するので、防除効果が劣り適切でありません。夕刻もしくは早朝の無風時が最も良く、早朝で霧のある場合は、ホースを濡らさないように注意します。
- 散布ホースは作業中、水平になるように運転状態を調整します。最初にエンジン回転を徐々に上げ、散布ホースを多少上がりぎみにしてから、調量レバーを徐々に開くと、薬剤がホース内を通り、水平になります。
- 散布ホースの吐出口は作物の草冠部から、約１０ｃｍ離れた位置（病害虫によって位置を変える）とし、散布ホースを水平に保ち吐出口は真下に向けて散布するように、先端のホース保持者が注意します。
- 防除作業に適する風の条件は薬剤の付着率から、風速２～３m/sまでが限度と言われていますが、風のある場合は風下から風上に向かって散布し、できるだけ農薬をかぶらないように注意します。
- 散布ホースの中持ち作業は、薬剤の濃度が高く、農薬の身体への付着率が高いので、禁止されています。薬剤を出したときに、散布ホースが水平になるように、背負動力散布機のスロットルレバーを調整します。

重　要

- 粒径３.５mm以上の肥料はホースで散布するとホース内に残留することがあります。
- 吐出量を約１０ｋｇ/min以上にするとホース内に肥料が残留することがあります。
- ホースで２０ｋｇ／１０ａ散布のときは、１０ｋｇ／１０ａで往復散布してください。
- 肥料の粒径や湿度などの変化により吐出量が異なりますのでご注意ください。
  ＤＭＫ－１で被覆肥料（ＬＰコート、セラコートなど）を散布の際はスロットルレバーを３～４にしてください。

図１



メータリングロッドは「増」の位置にセット

肥料散布

メータリングロッドは「増」の位置にセットします。
調整方法は６ページを参照してください。

- １７ページを参考にして、適正な開度と歩行速度で散布してください。

散粒ホース（肥料用）による散布

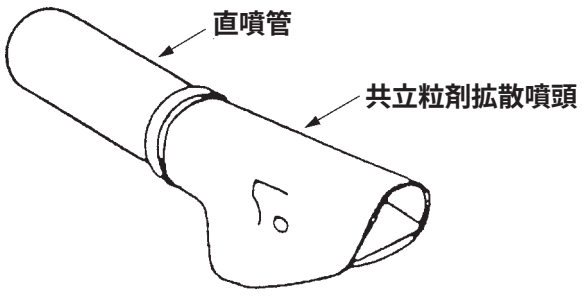
（粒剤用多口ホース噴頭大粒用）

- 取扱要領については散粉ホースに準じます。

共立畦畔噴頭による散布

- 取扱要領については「共立畦畔噴頭」ＤＭＫ－１についている説明書をよくごらんください。
- エンジン回転は充分に上げ、噴頭は３０°程度上向きにすると、均一に散布できます。
- 風の方向、強さによっては噴頭角度の調整が必要な場合があります。
- 追い風の方向に散布すると、飛距離が延びるので、これを考慮して散布してください。
- 無風時の最大有効散布巾は約１９ｍです。
- 追肥などで散布量を加減して散布したいときは噴頭を振りながら散布してください。

図２



共立粒剤拡散噴頭：別売品です。（２３ページ参照）
粒状除草剤・粒状肥料の散布にご利用ください。

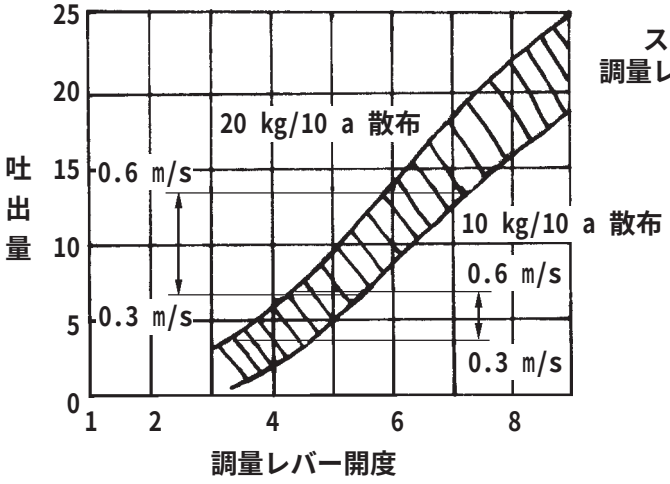
吐出量と調量レバー

肥料散布

メータリングロッドは「増」にセットします。
（セット方法は６ページ参照）

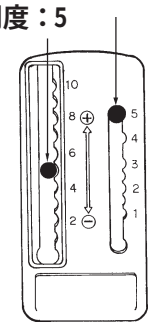
※歩行速度0.3ｍ/ｓ～0.6ｍ/ｓが標準です。
その範囲内で調量レバー開度を調整してください。

畦畔噴頭　DMK-1



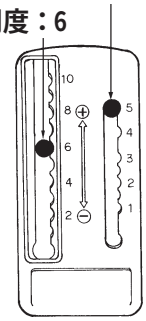
10 kg/10 a 散布のとき

スロットルレバー：5
調量レバー開度：5



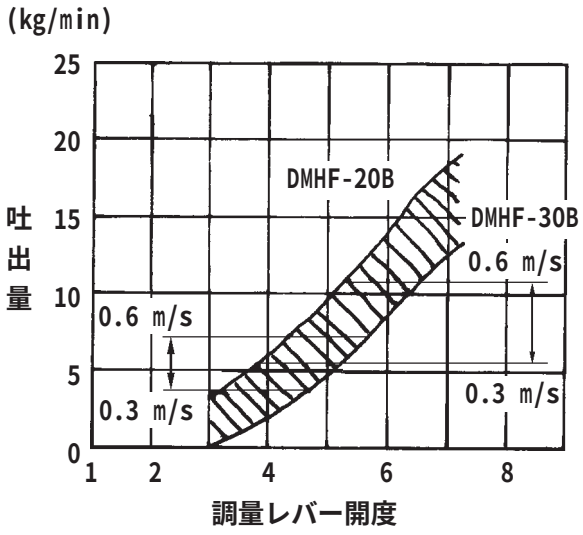
20 kg/10 a 散布のとき

スロットルレバー：5
調量レバー開度：6



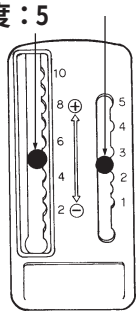
20ｍ肥料用ホース DMHF-20B

30ｍ肥料用ホース DMHF-30B



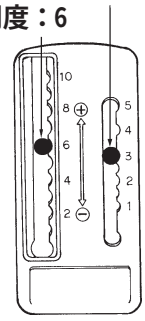
20m用肥料用ホースのとき

スロットルレバー：2.5
調量レバー開度：5



30m用肥料用ホースのとき

スロットルレバー：3
調量レバー開度：6



点　検・整　備

⚠ 注　意

点検・整備をする前に必ずエンジンを停止し、冷えた状態でプラグキャップを外して作業してください。

整備の目安

重　要

年単位および月単位の整備に要する日数間隔については実際の使用と経験から判断してください。

● 製品を調子良く、安全に使用するために定期的に点検・整備をしてください。

整　備　箇　所	整　　備	掲載ページ	使用前	毎　月	毎　年
エアフィルタ	清掃 / 交換	１９	●		
燃料フィルタ	点検 / 交換	１９		●	
燃料管	点検	－		●	
スパークプラグ	点検 / 清掃と調整 / 交換	２０		●	
キャブレタ	点検	－			●
シリンダフィン	点検 / 清掃	１９	●		
マフラ	点検 / 清掃	１９			●
ファンケース	点検 / 清掃	２０	●		
燃料系統	点検 / 修理	－	●		
ネジ、ボルト、ナット類	点検、ネジ類の増し締め / 交換	－	●		

⚠ 警　告

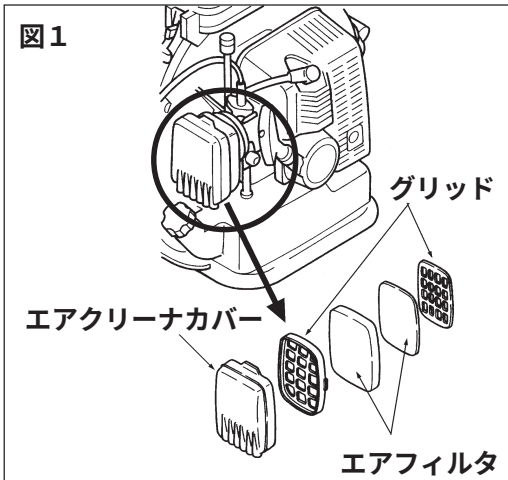
・髪の毛がファンに巻き込まれないように注意してください。
・エンジンが回転しているときは、エンジンと背当ての間に絶対に手を入れないでください。風圧によって手が引き込まれ指にケガをすることがあります。

点検要領

重　要

・作業が終了した後は、本機をよく清掃し常に最良の状態に点検・整備をしておくことが、次回の散布作業を順調に進めるのに最も大切なことです。
・使用後は必ずエアフィルタを清掃してください。
・燃料フィルタが汚れているとエンジンがスムーズに始動しなかったり、エンジン性能が低下したりします。
・燃料タンクは常に清掃しておきます。燃料タンクにゴミや砂などが入らないようにしてください。燃料フィルタ取付け時には、燃料フィルタが燃料タンクの底面に届いていることを確認してください。
・スパークプラグは締付け過ぎないようにしてください。
・フックの長さの調整で薬剤タンクの締付けの調整が可能ですが、締め過ぎないように注意してください。
・ご不明の点については、お買い求めの販売店にご相談ください。

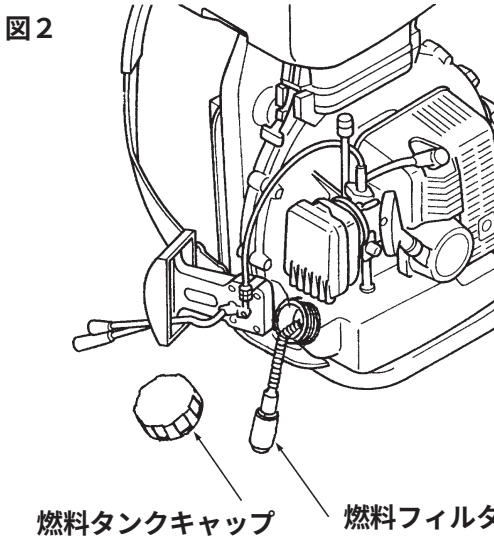
図1



エアフィルタの清掃

- チョークを閉じてから、エアクリーナカバー、グリッド、エアフィルタを取外します。エアフィルタの汚れ具合を点検し、汚れがひどい場合は中性洗剤を使って洗ってください。洗剤を使用した場合は、充分に水洗いをし、よく乾かしてください。
- エアフィルタを完全に乾かしたのち、取付けてください。

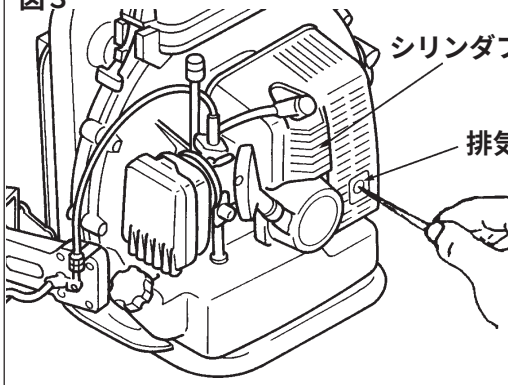
図2



燃料フィルタの交換

- 燃料タンクキャップを外します。
- 針金などを使用して、燃料タンクの開口部から燃料タンク内にある燃料管（ゴム管）を引き上げます。
- 燃料管から古い燃料フィルタを取外し、新しい燃料フィルタを取付けます。
- 燃料タンクは常に清掃しておきます。燃料タンクにゴミや砂などが入らないようにしてください。
- 燃料フィルタ取付け時には、燃料フィルタが燃料タンクの底面に届いていることを確認してください。

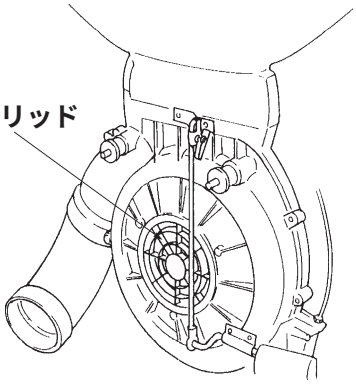
図3



マフラとシリンダフィン

- 排気出口のカーボンを取除いてください。エンジンの性能を一定に保つため、この作業は定期的に実施してください。
- シリンダフィンは常に清掃してください。シリンダフィンの間に物が詰まると、エンジンがオーバーヒートする恐れがあります。木の棒などを使って、芝、泥、葉、その他のゴミ屑をシリンダフィンの間から取除いてください。シリンダフィンは薄くて割れやすいので、清掃するときは金属の棒などで衝撃を与えないようにしてください。

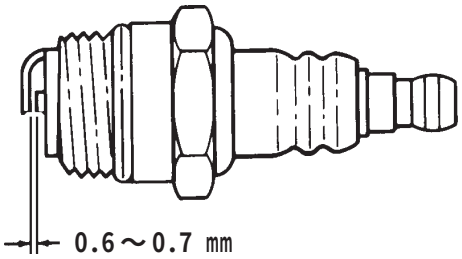
図１



ファンケースグリッド

- ファンケースグリッドは、毎日清掃する必要があります。グリッドが詰まると、エンジンがオーバーヒート（焼き付く）する恐れがあります。
- 髪の毛がファンに巻き込まれないように注意してください。
  エンジンが回転しているときは、エンジンと背当ての間に絶対に手を入れないでください。風圧によって手が引き込まれ指にケガをすることがあります。
- ファンケースグリッドの中の、ホコリ、葉、その他のゴミをすべて取出してください。異物がファンケースグリッドを通してファンに入り込まないように注意してください。ゴミ屑を取出す場合は、エンジンが完全に停止していることを確認してから、手を入れてください。
- 異物がファンケースの中に入るとファンやファンケース損傷の原因になります。

図２



スパークプラグ

- 付属のソケットレンチ（１９mm）でスパークプラグを外してください。
- 電極が減っているとき、すき間不良のとき（正しいすき間は０．６～０．７mm＝ハガキ３枚分の厚さ)、また電極の周囲にオイルや堆積物が付いているときは、新しいプラグと交換してください。(図２参照)
- スパークプラグは、付属のソケットレンチでしっかり締付けてください。
  参考：締付けトルクは１５～１７N・m
  （１５０～１７０kgf・㎝)です。

●発火テストは、シリンダのプラグ穴の上ではしないでください。

薬剤タンクと散布装置

薬剤タンクを本体から外し、調量シャッタおよびタンク内外面をよく清掃してください。
特に肥料を散布した後の清掃はていねいにしてください。
薬剤タンクキャップは常に完全な気密を保つことが必要ですから、パッキンの損傷には充分注意してください。
使用しないときは薬剤タンクキャップパッキンの保護のため、薬剤タンクキャップはゆるめておきます。
清掃後は必ず２～３分間低速でカラ運転してください。
薬剤タンクの中に薬剤が残っているときは次の要領で行えば残った薬剤をこぼさずに、容易に別の容器にうつすことができます。

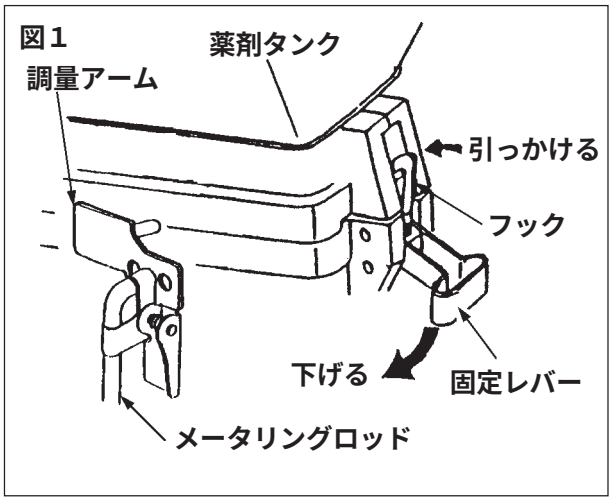
１．薬剤タンクキャップを少しゆるめ、薬剤タンク内の圧力を下げます。
２．調量レバーが確実に下がっていることをたしかめます。（調量レバーの位置は１がよい）
３．メータリングロッドを調量アームから外します。
４．両側の固定レバーを上げ、フックをタンク部より外します。
５．薬剤タンクキャップを外し、タンクを逆さにして薬剤を別の容器にうつします。

薬剤タンクの組付け

1. 調量レバーを、最下位より１段上の位置にします。
2. 薬剤タンクの調量シャッタを確実に閉じます。
3. 薬剤タンクの前、後を間違えないように本機に乗せます。
4. フックをタンク部に掛けてから固定レバーを両側いっしょに下げて薬剤タンクを締めてください。
5. 調量アームの穴にメータリングロッドを差し込みます。
6. 調量アームの位置は使用薬剤によって、６ページの調整方法を参照してください。
7. 調量アームの調整が終わったら、調量レバーを最下位にしてください。

フックの長さの調整で薬剤タンクの締付けの調整が可能ですが、締め過ぎないように注意してください。

ご不明の点については、お買い求めの販売店にご相談ください。



故障診断と対策

故障内容			原因	対策
エンジンが始動困難、または始動しない				
クランク軸が回転する →	キャブレタの燃料 →	キャブレタに燃料がない	●燃料フィルタの目詰まり ●燃料系統の目詰まり ●キャブレタの不良	●清掃 ●清掃 ●販売店へ
	シリンダの燃料 →	シリンダに燃料がない	●キャブレタの不良	●販売店へ
	→	プラグが燃料で湿っている	●空燃比(空気と燃料の混合比)が濃すぎる	●チョークを開く ●エアフィルタ清掃／交換 ●キャブレタ調整 ●販売店へ
	プラグコードの先端で発火する →	プラグコードの先端で発火なし	●電気的故障	●販売店へ
	スパークプラグは発火する →	スパークプラグが発火しない	●電極の隙間が正しくない ●カーボン(炭素)の堆積 ●燃料による汚れ ●スパークプラグの不良	●0.6～0.7 ㎜に調整 ●清掃／交換 ●清掃／交換 ●交換
クランク軸が回転しない			●エンジンの内部故障	●販売店へ
エンジンは始動する	持続しない、または加速不充分		●エアフィルタの汚れ ●燃料フィルタの汚れ ●燃料通路の詰まり ●スパークプラグの不良 ●キャブレタの不良 ●冷却装置の詰まり ●排気口／マフラ出口の詰まり	●清掃／交換 ●交換 ●清掃 ●清掃、調整／交換 ●調整 ●清掃 ●清掃
	粉剤／粒剤／肥料が吐出されない、またはスムースでない →	シャッターメカニズムの誤動作	●シャッターの変形 ●シャッター連動リンクのゆるみまたはずれ ●シャッター調量アームの調整不良	●交換 ●調整／固定 ●調整
	→	薬剤が原因	●薬剤が湿気をおびているか、古くなっている ●異物が薬剤の中に混入している ●薬剤が固まっている	●新しい薬剤または乾燥した薬剤を使用する ●薬剤を取除き、新しいものを入れる ●固まりを砕く
	→	組付不良	●薬剤タンクキャップがゆるんでいる ●薬剤タンクの取付けが不安定	●締める ●固定する
	ミストが吐出されない／ミストの吐出がスムースでない		●バルブが閉じている、または閉じかかっている ●バルブの詰まり ●吐出パイプの詰まり ●ノズルの詰まり ●薬剤タンクキャップがゆるんでいる	●バルブを開ける ●清掃 ●清掃 ●清掃 ●締める

保　　管

⚠ 警　告

燃料ガスが充満している密閉された場所や、裸火、火花のある場所に保管しないでください。

重　要

この取扱説明書は、いつでも読めるよう保管してください。

長期保管（６０日間以上）

機械を長期間 （60 日間以上）にわたって保管する場合は、以下に示す保管の際の整備を必ず実施してください。

１. 薬剤タンク内に残留している薬剤を排出するか取出します。薬剤タンク、シャッタ、吐出管の内側を清掃します。機械の外側に付いたオイル、ホコリ、ゴミなどもきれいに拭き取ってください。
２. 本書に定められた定期的な点検をしてください。機械の全ての部分を検査し、調節してください。スクリュ、ナット類が締まっているか確認してください。ゆるんでいる場合は増し締めしてください。
　Ａ. 必要ならば、掃除をし、修理をしてください。
　Ｂ. サビ止めに金属部分には薄く油を塗ってください。
３. 燃料タンクを完全にカラにしてください。
　キャブレタ内の燃料も排出してください。
４. スパークプラグを外し、その取付穴から大さじ１/２杯の、新しくきれいな２サイクルエンジンオイルをシリンダに入れてください。
　Ａ. スパークプラグの取付穴の上にきれいな布をかけてください。
　Ｂ. スタータグリップを２、３回引いて、エンジンオイルをエンジンに行き渡らせてください。
　Ｃ. スパークプラグ取付穴からピストンの位置を確認してください。スタータグリップをゆっくり引き、ピストンが最も上のところで止めるようにしてください。
５. スパークプラグを取付けてください。
　（スパークプラグキャップは接続しないでください。）
６. 機械を乾かし、子供の手の届かないホコリのない場所に保管してください。

特 別 注 文 品

本機の標準出荷仕様のほかに、次のアタッチメントが特注品として用意されていますので、ご利用状態により別途お買い求めの販売店にご用命ください。

- １ kg 粒剤用吐出制御板
- 共立粒剤拡散噴頭
  粒状除草剤･肥料の散布にご利用ください。
- ミスト装置
- 散布ホース関係

本文での表示	散布ホース梱包箱表示	長さの種類(m)
散粉ホース	パイプダスタ	２０，３０，４０，５５，６０
散粒ホース （除草剤用）	粒剤用 多口ホース噴頭（小粒用）	２０，３０，４０
散粒ホース （肥料用）	粒剤用 多口ホース噴頭（大粒用）	２０，３０

仕　　様

項　　目	単位	Ｆ６００
質量 （たわみ噴管、噴頭、 噴管類、燃料除く）	kg	１０．６
容量 燃料タンク 薬剤タンク	L L	１．８ ２６（２１～２３kg）
外形寸法 （たわみ噴管、噴頭、 噴管類除く） 長さ×幅×高さ	mm	４００×５０５×７６０
エンジン 形式 排気量 キャブレタ 点火方式 スパークプラグ 始動方式	mL	空冷２サイクル単シリンダ ５０．８ ダイヤフラム式 フライホイールマグネト：ＣＤＩ方式 ＮＧＫ　ＢＰＭ７Ｙ リコイルスタータ
燃料 混合比		[５０：１] ・共立純正２サイクル専用オイル　ＪＡＳＯ性能分類　ＦＣ [２５：１] ・２サイクルエンジンオイル　　ＪＡＳＯ性能分類　ＦＢ，ＦＡ
散布装置 送風機最大風量 基準回転速度	m³/min r/min	１１ ７，２００
調量方式 粉剤最大吐出量	- kg/min	セレクトシャッター方式 １８
付属品 畦畔噴頭 ソケットレンチ （１０×１９） 防除マスク 取扱説明書	個数 個数 個数 個数	一式 １ １ １

＊この仕様は予告なしに変更することがあります。

株式会社 共立

東京都青梅市末広町1-7-2　〒198-8711　☎0428-32-6111(代)

北海道共立エコー株式会社
札幌市厚別区大谷地東1-2-20　〒004-0041　☎011-891-2249(代)

東北共立エコー株式会社
仙台市若林区卸町東5-1-50　〒984-0002　☎022-288-0511(代)

両毛共立エコー株式会社
宇都宮市御幸本町4736-7　〒321-0983　☎028-661-0431(代)

関東共立エコー株式会社
八王子市長沼町1305-5　〒192-0907　☎0426-44-0572(代)

信越共立エコー株式会社
長野市若穂綿内1136-18　〒381-0101　☎026-282-1010(代)

中部共立エコー株式会社
愛知県西春日井郡西枇杷島町宮前町1-39　〒452-0031　☎052-502-4111(代)

西部共立エコー株式会社
岡山市藤田566-159　〒701-0221　☎086-296-5911(代)

九州共立エコー株式会社
大野城市白木原5-3-7　〒816-0943　☎092-573-5361(代)

エコーレンテックス株式会社
青梅市末広町1-7-2　〒198-0025　☎0428-32-6777(代)

◎ご用命の際はお買い上げいただいた販売店へご連絡ください。

X750-001 07 0
X750102-480 0